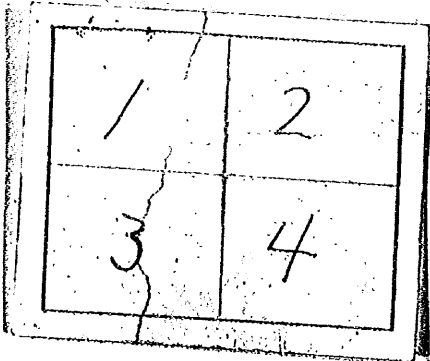


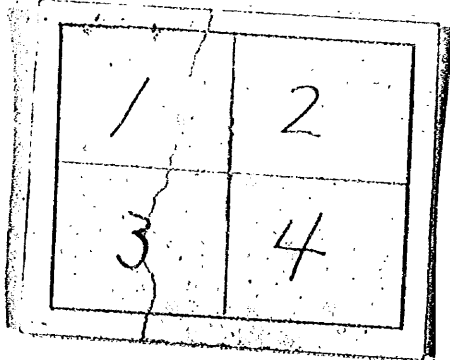
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

隊小馬乘	隊中砲兵歩	隊中信通	隊小砲兵歩	隊銃關機三第	隊中九第	隊中八第
			准尉 中村 義人	見士 金光	長 中尉 河野 重志 少尉 金田 一郎	吉田
			69			
	春 輝		春 輝			
	上 司					
	武蔵一〇五五		戦平なし 八、二八、長谷川源行密江村にて武蔵 昭三〇八、一八、武蔵にて武蔵	開戦當時豊平海軍大佐に於いて軍中 隊中にて砲撃と同時に種子島に前進 三遊河子に於いて空襲戦 八、二五、大石隊にて解散教化に收容さ 戦死七、負傷二、一三	第九中隊は部隊主力の位置たる小銃隊より 東方約四新南李家屯へ警戒部隊として配置 したるも、八、九より戦斗開始 八、一四、八、一五、部隊全滅せり (七〇、八〇名)	戦死三〇
			兵は作樂大隊 務校は別行動間島			
			九、一七、金谷に於いて五 二大隊後一五二大隊と改等 長 大尉 古川又千郎 クラスキー 務校は一一、九間島出 一一、二一、クラスキー二 一、四、クラスキー	教化に於いて二四八大隊 成		
			44名			
			務校は別行動間島			

隊小馬乗	隊中砲兵歩	隊中通信	隊小砲兵歩	隊銃關機三第	隊中九第	隊中八第
			准尉 中村 義人	見士 金光	長 中野 重志 中尉 河野 一郎 少尉 倉田 一郎	三三
			69			
	香 瑞		香 瑞			
	上 剛					
	武研一〇五五		戦平なし 八、一八、兵器師要隊行密江船にて武研 昭三〇八、一八、武研下武研昭三〇五	隨隊當時海軍西方樺太山に於いて海軍海 軍中にて訓練と同時に戦子隊に前進途中四 三砲隊に於いて等空襲中 八、二五、大石隊にて解散教化に坂谷との 戦死七、負傷十二、一三	第九中隊は部隊主力の位置たる小隊として 東方約四軒南手家屯へ警戒部隊として進 したるも、八、九より砲撃開始 八、一四、八、一五、部隊全滅せり (七〇、八〇名)	戦死三〇
			兵は作業大隊 將校は別行動間島			
			六、一七、倉着に於いて五 二大隊後一五二大隊と改稱 長 大尉 古川 又十郎 クラスキー 將校は一一、九間島山 一一、二一、クラスキー二一 一、四、ラーダ 敵が本隊を小隊に分割 し、本隊を 九、一八、山	教化に於いて二四八大隊編 成		
			44名			
			機銃用電 所 傍に「五三」の数字			

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0657
0658
0659
0660

第三軍第一一二師團部隊名步兵第二四八聯隊 (一)

通稱 號 滿二〇三一二八

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人訓編	隊別	隊長名	開入	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ運の變動	入ソ人員	滿洲殘留	收容
<p>二〇、四より部隊は國領正西の陣地構築のため同地に移動陣地を構築す。</p> <p>八、九、ソ軍は國領を突破し輝春附近に侵入す兵力戦車八歩約二ヶ隊隊なり。</p> <p>八、一五ノ軍戦車の攻撃を受け戦斗約四時間後國領地方十村に後退す。</p> <p>八、一六 部隊は敵部隊に國領第二聯隊として敵陣内に侵入防禦の實施せるため各中隊別に行動して作戦間の相互の連絡に任ぜざる状況なり。敵は未だ主陣地を突破するに至らざるも北方より主陣地を迂回し國領予備陣地たる國領西北方及後方據點を占に侵入し來る。</p> <p>八、一七 午前四時敵は國領橋梁に進出したるを以つて第二中隊は第一大隊の收容に任じ本部は第三大隊地区に入り、第三大隊に</p> <p>八、一八 朝霧交戦六(八)夜霧附近の戦斗に於て見習士官以下三〇名戦死(傷)隊長は八、二七連絡のため出發したるも國領延吉間に於て敵の攻撃を受け聯隊旗と共に山中に入る。</p> <p>八、一八 朝霧杉參謀連絡に來り師團は解散す。</p>		十九年以降	十九年以降	2409	第一聯隊本部	大佐 廣瀬 利喜 大尉 小島 善藏 副隊長 坂本 竹本	1640	奉天 門園 溝道三	<p>國領正西の陣地構築のため部隊は移動八、一五、敵戦車の攻撃を受け戦斗後三大隊本部の位置に後退</p> <p>八、一六、部隊解散</p> <p>國領と同時に関領部隊本部に移動集結輝春南大河北方十村の陣地に轉進し輝春國領街道を前進せる敵を阻止す。</p> <p>八、九、軍旗中隊として國領北方高地に陣地移動</p> <p>八、一六、敵國領古領時聯隊本部と共に一部戦斗す</p> <p>八、一八、三大隊本部に合流すべく陣中隊に包圍され依つて中隊は解散す</p> <p>八、一八、間島にて武解</p>	<p>二〇、九、二、間島に收容作業三五大隊を編成す</p> <p>九、四、間島出發行により沿道州ラヌキに移動</p>	<p>一一、九、間島收容所出處</p> <p>一一、四、一、ラーダ一八</p> <p>八收容所(終戦ノミ)</p>	收容		

編制人員

部隊名 步兵第二四八聯隊 (一)

通稱號 滿二〇三二二八

郵便所名

隊中	隊中	部本隊大	部本隊聯	別隊
第二	第一	第一	第一	第一
	長 竹本			隊長名 (内は先代を示す) 大佐 廣瀬 利喜 大尉 小島 善藏 副隊長 佐藤 孝之助
				開人 戦時 駐屯地 春 環 門 園 溝 道三
				戰鬥間の状況及損耗 園内正副の陣地構築のため部隊は移動 八、一五、敵機軍の攻撃を受け戦後三六 隊本部の位置は後退 八、一六、部隊解散
				終戦後の人員變動 八、九、敵機中隊として園内北方高地に陣 地移動 八、一六、敵機園内偵察隊本部と共に一 部隊解散 八、一八、三大隊本部に合流すべく離園中 隊に包圍され従つて中隊は解散す 八、一八、同島にて解散
				作業大隊より 入「ソ」迄の變動 二〇、九、二、 開島に收容作業三五大隊を 編成す 九、四、開島出發行により 沿道州クヌキに移動
				入「ソ」人員 隊別 計
				滿洲 残留
				收容所名 所人 死亡 滿洲 より 領 計 者 數
				歸還人員 狀況不明

二〇、同隊は...

八、九、ノ軍は...

八、一五、ノ軍は...

八、一六、...

八、一七、...

八、一八、...

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 第
		長 竹本		大 佐 大 尉 小 尉 曹 長 13.40
				春 武 門 三 等 三
				八、一五、ノ軍は...
				八、一六、...
				八、一七、...
				八、一八、...

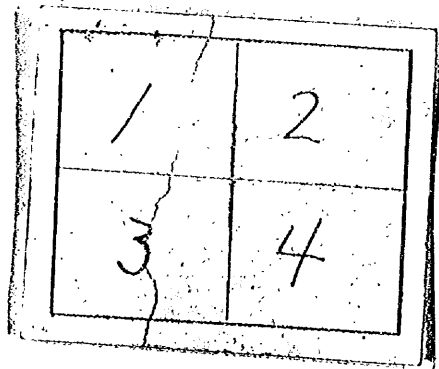
二〇、...

二一、...

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 聯
		長 竹本		大佐 渡辺 義典 大尉 小島 善吉 大尉 小島 善吉
				35.40
				春 隊
				三 隊
		八、九、軍機中隊として國領北方高地に陣 地移動 八、一六、政國師団臨時聯隊本部と共に一 部退却す 八、一八、三大隊本部に合流すべく極進中 隊に位置すれど中隊は解散す 八、一八、同隊にて解散	閉隊と同時に國領聯隊本部に移動後結集奉 南大洞北方村の陸地に轉進し操茶園側街 遊歩前進せる隊を阻止す	四日五箇の陸地確保のため聯隊本部 八、一五、政國師団臨時聯隊本部と共に 隊本部の陸地に退却す 八、一六、政國師団臨時聯隊本部と共に
				二〇、二二、 三、四、五、六、七、八、九、 一〇、一一、一二、一三、一四、一五、 一六、一七、一八、一九、二〇、二一、 二二、二三、二四、二五、二六、二七、 二八、二九、三〇、三一、三二、三三、 三四、三五、三六、三七、三八、三九、 四〇、四一、四二、四三、四四、四五、 四六、四七、四八、四九、五〇、五一、 五二、五三、五四、五五、五六、五七、 五八、五九、六〇、六一、六二、六三、 六四、六五、六六、六七、六八、六九、 七〇、七一、七二、七三、七四、七五、 七六、七七、七八、七九、八〇、八一、 八二、八三、八四、八五、八六、八七、 八八、八九、九〇、九一、九二、九三、 九四、九五、九六、九七、九八、九九、 一〇〇
		一一、九、同島牧野所田處 二一、四、一、二、三、四、五、 八、牧野所(一)陸隊ノミ		

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序



分割撮影
した理由

A 3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

0661
0662
0663
0664

属所

第三軍第一二部師團

歩兵第二四八聯隊 (通稱號)

公滿二〇三二二八

郵便所名

全般概要				轉入 十九年以降		轉出 十九年以降		員人制編		別隊	
中四第		部本隊大二第		隊小砲兵歩		隊銃關機一第		隊長名 (内は先代を示す)		關人 戰時 平時	
								駐屯地		戰時	
								戰鬥間の狀況及損耗			
								終戦後の人員變動			
								作業大隊より 入ソ連の變動		入ソ人員	
								隊別計		滿洲殘留	
								收容所名		收容	

隊長名		戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ連の變動	入ソ連人員	満洲残留	收容所		歸還人員	状況不明者數		
(内は先代を示す)							戦時人員				收容所名	所人員
戦時人員	平時人員						戦時人員	戦時人員				
第一機關銃隊	步兵砲小队											

歩兵第二四八聯隊 (二) 通稱號

滿一三二二八
公三二二八

郵便所名

隊 中 五 第

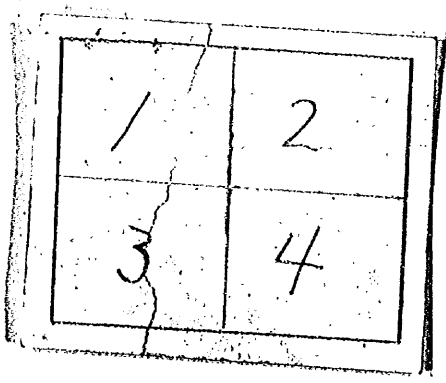
隊 中 四 第

部 本 隊 大 二 第

隊 小 砲 兵 步

隊 銃 砲 機 一 第

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0807
0808
0809

屬所

第三軍第一一二師團部隊名 步兵第二四八聯隊 (三)

通稱號 滿一〇三二二八

郵便所名

全般概要

轉入

轉出

員人數

別隊

隊長名
(内は先代を示す)

戰時 人員

平時
駐屯地
戰時

戰鬥中の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ返の變動

入ソ人員
隊別計

滿洲殘留

收容 救

部本隊大三第	隊小砲兵步	隊銃關後二第	隊中六第	別隊
大府作本				(内は先代を示す)
約30				戰時 人員
				平時 駐屯地 戰時
				戰鬥中の狀況及損耗
				終戦後の人員變動
				作業大隊より 入ソ返の變動
				入ソ人員 隊別計
				滿洲殘留
				收容 救

		員人制編	
本隊大三第	隊小砲兵歩	隊銃關機二第	隊中六第
			別隊
大前作木			隊長名 (内は先代を示す)
			戦員
約30			備人
			平時
			戦時
			駐屯地
			戦闘間の状況及損耗
			終戦後の人員變動
			作業大隊より 入ソ返の變動
			隊別
			入ソ人員
			満洲残留
			收容所名
			所人
			死亡
			満洲より領
			歸還人員
			計
			者数
			状況不明

部隊名 歩兵第二四八聯隊 (三)

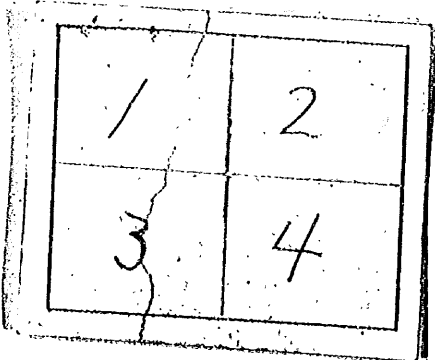
通稱號 滿二〇三二八

郵便所名

隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 步	隊 銃 關 機 二 第	隊 中 六 第
<p style="text-align: center;">中 隊 後 手 一 夫</p>	<p style="text-align: center;">大 隊 佐 木</p>			
<p style="text-align: center;">13 750</p>	<p style="text-align: center;">14 30</p>			

隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 步	隊 銃 關 後 二 第	隊 中 六 第
中野 俊 一 夫	大野 佐 木			
19 730	19 30			

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0671
0672
0673

全般概要		轉入		轉出		編制人員		部隊名	
		十九年以降		十九年以降				第三軍第一二師團	
								步兵第二四八聯隊	
								(四)	
								通稱 號滿一三二二八	
								郵便所名	
								滿洲殘留	
								收	
歩	隊中通信	隊小砲兵歩	隊銃關機三第	隊中九第	隊中八第	別隊	隊長名	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動
中隊 江崎白一	中隊 杉正剛		少尉 野原 勝	中隊 白井武夫		中尉 磯部 正家	(内は先代を示す)	戦斗間の状況及損耗	終戦後の人員變動
	19100		19120	13150	130			駐屯地	
								島 岡	
								川 園	
								戦斗間の状況及損耗	終戦後の人員變動
								作業大隊より	入ソノ人員
								入ソノ迄の變動	隊別計

昭和二十年八月十八日大隊長の命令で解散

部隊名					出	
歩兵第二四八聯隊 (四)					人員編制	
別	隊長名	開入	駐屯地	戦闘時	平時	人員
第八中隊	中尉 白 孝武夫	230	島 岡	230		
第九中隊	中尉 野 宗 勝	13/50	川 崎			
第三機關銃隊		13/20				
步兵小隊						
通信中隊	中尉 山 崎 正 嗣	13/10				
戦闘間の状況及損耗 終戦後の人員變動 作業大隊より入「ソ」迄の變動 (内は先代を示す)					通稱 號滿一三二二八 郵便所名	
					戦斗間の状況及損耗 終戦後の人員變動 作業大隊より入「ソ」迄の變動	
満洲残留					隊別 入「ソ」人員 計	
					收容所名	
					人員 死亡	
					人員 満洲より領計	
					人員 者 状況不明	
					人員 者 数	

本隊は二十八年八月十八日大隊長の命令で解散
 受領した要路に第二連隊中隊となつたが敵の攻

隊小馬乗	隊中砲兵歩	隊中 信通	隊小砲兵歩	隊銃關機三第	隊中九第	隊中八第
	中隊 江崎昌一	中隊 山形正剛		少尉 野沢 勝	中隊 白井武夫	
	約150	約100		約120	約150	約30
						島 島
						加 港
<p>星野少将以下三名中隊司令官等より 脱走者八二七騎並傷亡者約 一二名を合流したる馬場を 江崎隊（頭連清）</p>						
<p>渡辺中隊長が率いる騎隊が四時 許に渡辺中隊長の率いる騎隊と は朝陽の輝く朝霧の中を 激しく追いつき、追いつた</p>						
<p>内、右方の島嶼に於て 王王大海に歸入</p>						

第一編 第二章 第三節 陸軍の編制と装備
 第三編 第七章 陸軍の編制と装備
 第三編 第七章 陸軍の編制と装備

コクノリニシテ
 陸軍部文所、ヨリ
 送付

隊小馬乗 隊中砲兵歩 隊中信通 隊小砲兵歩 隊銃關機三第 隊中九第 隊中八第

中隊 江崎白一
中隊 杉正剛
少尉 野原 藤
中隊 白井武夫

約150

約150

約120

約150

約130

星野中隊下三人名簿開合等を以て
船員八七名 砲兵五名 歩兵五名
久二名と合流一八〇名 馬場中隊
江崎隊(砲連隊)

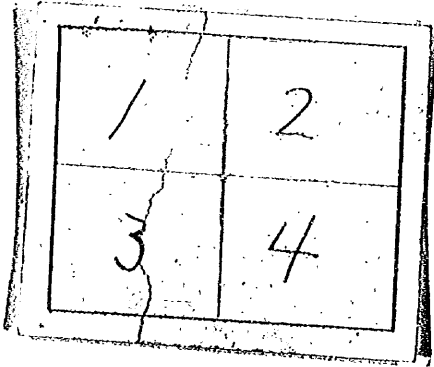
進田中隊は去秋東部より西へ
向ふに渡りて是れを以て他より
は船員等より新人員を初め合流
隊員約三〇名は安海隊を以て
守る

内一五名は別島に在り
一五名は大海(編入)

コロンビア島に在り
安海隊支所(一五名)
海軍

星野中隊の二名は海軍に歸し
船員八七名 砲兵五名 歩兵五名
久二名と合流一八〇名 馬場中隊
江崎隊(砲連隊)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0673
0674
0675
0676

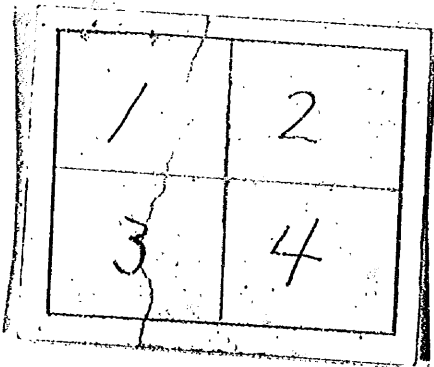
所 題
第二軍第一一二師團部隊名 第一一二師團制毒隊

通稱號

郵便所名

全般概要	
轉入 十九年以降	轉出 十九年以降
員入調編	
別 隊	
隊 長 名 ()内は先代を示す	
開入 戦時	駐屯地
平 時	駐屯地
戦 時	駐屯地
戰鬥間の状況及損耗	
終戦後の人員變動	
作業大隊より 入ソ返の變動	
入ソ人員	隊別計
滿洲残留	
收	

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

06890
06890
06890

第三軍第一一二師團部隊名 第一一二師團挺進大隊

通稱號 公二〇三五五

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	別隊	隊長名	職關人	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	入ッ人員	滿洲残留	収容				
一〇、一六 一、二師團各歩兵隊より 各々約三〇〇名を抽出し 編成す（約一五〇〇） 八、九 中隊子移動陣地構築 八、一六 夕四時敵軍九百歩兵隊 と交戦夕八時頃より激戦の ため逆進行動不能 八、一七 コウ山に陣地を構築し逆進 攻撃となる夜半停戦命令		十九年以降	十九年以降	1130	中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本	少佐 佐野 隆夫 (内は先代を示す)	職員 平 時 戦 時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	入ッ人員	滿洲残留	収容
				1130	中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本	少佐 佐野 隆夫 (内は先代を示す)	職員 平 時 戦 時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	入ッ人員	滿洲残留	収容
					中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本	少佐 佐野 隆夫 (内は先代を示す)	職員 平 時 戦 時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	入ッ人員	滿洲残留	収容
					中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本	少佐 佐野 隆夫 (内は先代を示す)	職員 平 時 戦 時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	入ッ人員	滿洲残留	収容

中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本	別隊
	中尉 田丸	中尉 久保野人	中尉 石橋淳之助	少佐 佐野 隆夫	()内は先代を示す
	270	270	270	86	戦 闘 人 員
		春 球		春 球	駐 屯 地
		上 同	右 同	嶺盤小	時 間
	波多面にて陣地構築のため移動 特別行動、殆んど全滅せる模様	八、九、朝霧谷にて戦車攻撃の攻撃により 五須谷(少尉等山小隊)人員四散 八、一五、夕霧谷にて武解 八、大橋、夕霧谷、馬場、中野、下野 五、右、日野、赤木、河、地、石、木、 本、石、木	八、九、中野子にて陣地構築 八、一六、小嶺にて(除五小隊)戦車新 込のため戦後方へ行動 八、一八、香江屯にて武解	八、九、中野子にて陣地構築 八、一六、小嶺にて戦車 八、一八、香江屯にて武解	戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗
					終 戦 後 の 人 員 變 動
		間島に收容(七、八名) 前線より作務三三三名 三三三、長、中野、河、地、石、木、 本、石、木	昭三三三、前島、作務 三三三、長、中野、河、地、石、木、 本、石、木	前線に收容(七、八名) 昭三三三、前島、作務 三三三、長、中野、河、地、石、木、 本、石、木	作業大隊より 入「ソ」迄の變動 前線に收容(七、八名) 昭三三三、前島、作務 三三三、長、中野、河、地、石、木、 本、石、木
					入「ソ」人員
					満洲残留
		ニムンモリスク 七〇五收容所 作務三三三、長、中野、河、地、石、木、 本、石、木	コロンモリスク(八收容所) 作務三三三、長、中野、河、地、石、木、 本、石、木	ラーゲ	收 容 所 名
					所 入 員
					死 亡
					満洲より
					領 員 計
					者 数
					状況不明

隊名 第一一二師團挺進大隊

通稱號 公二〇三五五

郵便所名

八、一六、小笠原にて退却
八、一八、空江にて退却

八、九、中島子にて陣地構築
八、一六、小笠原にて(隊五小隊)退却
込のため後方へ移動
八、一八、空江にて退却

八、一六、夕四時敵機九台歩兵隊
と交戦夕八時頃より退却の
ため至近行動不能

八、一七、
コウ山に陣地を構築し退却
態勢となる夜半停戦命令

1130

隊中銃關機	隊中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本
		中尉 田丸	中尉 久保彦八	中尉 石橋清太郎	
		270	270	270	86
			春 珉		春 珉
			上 同	右 同	機 登 左
		並多面にて陣地構築のため退却 特別行動、殆んど全滅せる模様	八、九、朝霧にて敵機隊の攻撃により 殆ど全滅(少尉平山小隊)人員退却 八、一五、夕四時頃にて退却 八、一六、石橋の陣地を、有人機が襲撃し、 五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、 本 止	八、九、中島子にて陣地構築 八、一六、小笠原にて(隊五小隊)退却 込のため後方へ移動 八、一八、空江にて退却	八、一六、小笠原にて退却 八、一八、空江にて退却

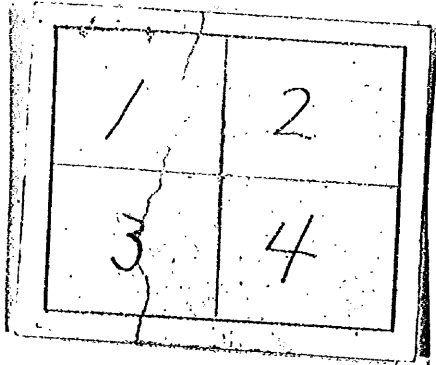
機 登 左
機 登 左
機 登 左
機 登 左

八、九、中島子にて陣地構築
八、一六、小笠原にて(隊五小隊)退却
込のため後方へ移動
八、一八、空江にて退却

八、九、朝霧にて敵機隊の攻撃により
殆ど全滅(少尉平山小隊)人員退却
八、一五、夕四時頃にて退却
八、一六、石橋の陣地を、有人機が襲撃し、
五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、
本 止

隊中銃關機	隊中砲射速	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本
		中尉 田丸	中尉 久保田彦八	中尉 石橋清太郎	
		270	270	270	86
			春 珉		春 珉
			上 同	右 同	巻終小
		注多面にて陣地構築のため移動 特別行進、殆んど全滅せる模様	八、九、朝霧系にて砲撃隊の攻撃により 松山(少尉平山小隊)人員四散 八、一五、夕霧系にて武原 八、六、松山系にて八、五、中隊の陣地 五、五、石橋系にて八、五、中隊の陣地 本一五	八、九、中隊子にて陣地構築 八、一六、小隊にて(松山小隊)砲撃 八、一七、松山系にて行進 八、一八、松江系にて武原	八、一六、小隊にて砲撃 八、一八、松山系にて砲撃
			間島に收容(七、八名) 八、五、中隊の陣地にて 八、六、松山系にて 八、一六、小隊にて 八、一七、松山系にて 八、一八、松江系にて	八、九、中隊子にて砲撃 八、一六、小隊にて砲撃 八、一七、松山系にて行進 八、一八、松江系にて武原	八、一六、小隊にて砲撃 八、一八、松山系にて砲撃
			コムンモリスク 七〇五收容所 作中三六隊はコムン クフカ一五隊は	コムンモリスク 七〇五收容所 作中三六隊はコムン クフカ一五隊は	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0684
0683
0682
0681

第三軍第一一二師團部隊名野砲第一一二聯隊 (一)

通稱號 公二一〇三三三五

郵便所名

全般概要

轉入
轉出

員入編

隊長名
(内は先代を示す)

駐屯地
平時
戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入ッ迄の變動

入ッ人員
隊別計

滿洲殘留

収容

砲隊に駐屯し「ソ」に參戰し、中隊西方山嶺群十六軒附近にて八月十日迄戰鬥し、隊中約一ヶ中隊は全滅の狀態であつた。砲隊は全滅の餘り六門破壊され、戰鬥不利であつたが、大隊司令部附近に居り、一部は「ソ」に參戰し、翌日に於いて砲地構築中にして「ソ」に參戰し、共に戰鬥し、入り十四日迄戰鬥した。約三〇%交戦後各中隊毎に行動したが、交戦中「ソ」に被弾されたもの相違あり、砲隊附近で戰鬥した部隊は、互に於いて武裝された。後、野砲隊に集結し、「ソ」の指示により更に砲隊飛行隊に移動し、食糧不足により食糧を移動。

九、一六

617

別隊	聯隊本部	第一大隊本部	第一中隊	第二中隊	第三中隊	第二
少佐 塚本清太郎 中佐 小野正彦 少佐 長瀬清太郎	大尉 細川 忠文	少尉 吉村佳雄	見士 全枝信夫	少尉 秋田隆夫	少佐 竹本六郎	
春 砲 春 砲						
部隊は砲十八門を有す	六、一〇、小隊隊附近に聯隊本部主力と密江にて八、九、一〇、連入 八、一、八、一六、連對戰車戰鬥大隊として戦死六〇、生死不明三〇 八、一八、聯隊にて武裝	戦死五名、行方不明一	聯隊本部主力と共に密江にあり 三、一、八、一六、連對戰車戰鬥 戦死二〇、行方不明一〇		六、一〇、小隊隊附近に 二大隊隊駐屯し、二四八輕隊の 糧食の不足を心配	
各收容所へ移動間係長送亡す(約三〇名)	大隊として一五〇名 連日係長三名、野三三三				昭三〇、二六、全名を移動	
二〇、九、二、金谷に於いて三五作業大隊を編成す 長尾形忠行大尉 二〇、八、一七、水澤に收容 八、二五、金谷收容所に收容 二〇、九、四、金谷出發隊を編て「入」	九、一五、金谷に於いて作 五二大隊編成 長 野野大尉 死亡三、送亡三〇、金谷に 於いて收容分難 聯隊連隊四〇名は開島に集 合し、將校大隊を編成したる 模様				第五八大隊 長尾野 大隊(五、五〇名)	
部隊長は「カ」收容所へあり						

隊名 野砲第一一二聯隊 (一)

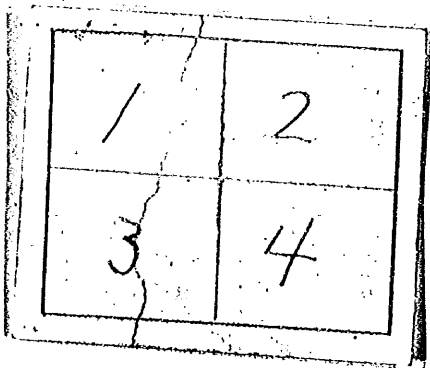
通稱號 公二〇三三三五

郵便所名

別	隊長名	隊員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	入ッ人員	滿洲殘留	收容所名	收容所	歸還人員	状況不明者数
第一聯隊	少佐 塚本清太郎 (内は先代を不詳)	少佐 塚本清太郎 少佐 小野王雄 少佐 長瀬喜伴 少佐 吉村保雄	奉天 奉天	六、一〇、小笠原附近に聯隊本部主力と密江にて八、九「ソ連」侵入 八、一〇、八、一六、逆對聯隊大戦として戦死六〇、生死不明三〇 八、一八、凍害にて武解	大隊として一五〇名減 退七日余三名如野一三名	二〇、九、二、金谷に於いて五三作業大隊を編成す 五三形忠行大尉 二〇、八、一七、水海に收容 八、二五、金谷收容所に收容 二〇、九、四金谷出發隊奉を編て「入」	九、一五、金谷に於いて作五二大隊編成 長 菅野大尉 死亡三、逃亡三〇、金谷に於いて解散に分離 聯隊残四〇名は間島に集合し終戦大隊を編成したる模様	入ッ人員	收容所名	收容所	滿洲より	状況不明者数
第二聯隊	少佐 作本六郎	少佐 作本六郎		六、一〇、小笠原附近に二大隊編成し二四八聯隊に編入 八、一八、凍害にて武解	聯三〇、二六、金谷名を移動 身入八大隊 長菅野 大隊一五五〇名				收容所名	收容所	滿洲より	状況不明者数
第三聯隊	少佐 廣田國光	少佐 廣田國光		聯隊本部主力と共に密江にあり 三、一〇、八、一六、逆對聯隊戦死二〇、行方不明一〇								
第四聯隊	見士 全枝信夫	見士 全枝信夫										
第五聯隊	少佐 吉村保雄	少佐 吉村保雄										
第六聯隊	大尉 細川 忠文	大尉 細川 忠文										

隊中四第	部本隊大二第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊
少尉 野田	少佐 作本六郎	少尉 飯田剛夫	見上 今枝信夫	少尉 吉村孝彦	大尉 細川 忠文	少佐 塚本清太郎 少尉 山崎三郎 少尉 長谷川清一
						少尉 坂本
						少尉 坂本
	六、一〇、小笠原附近に 二大隊を配置し二四八程隊 は、小笠原を解		隊本部主力と共に密江にあり 三、一、一、八、一六、送對戦車隊と 戦死二〇、行方不明一〇		六、一〇、小笠原附近に隊本部主力と密 江にて八、九「ソ軍」侵入 八、一、一、八、一六、送對戦車隊と して戦死六〇、生死不明三〇 八、一八、森村にて武庫	
	昭二〇八二六全名を補動				大隊として二五〇名 送對戦車二名 短針一三三	
	九、一八大隊本部等 大隊(五五三〇名)				九、一五、金谷に於いて作 五二大隊編成 長 菅野大尉 死亡三、進上三〇、金谷に 於いて捕虜は分隊 隊本部四〇名は問島の茶 合し大隊を編成したる 隊	二〇、九、二、金谷に於い て五三作大隊を編成す 三、五、四、大隊 二〇、八、一、水窪に攻 零 八、二五、金谷隊本部に攻 零 二〇、九、四、金谷出陣隊 を編成す
	昭二〇八二六全名を補動 (五五三〇名)					部隊本部「ヒラノ」 第一隊本部に編成 しあり

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0689 0690 0691 0692 0693 0694 0695 0696 0697 0698 0699

第三軍第一一二師團隊名 野砲第一一二聯隊 (二) 通稱號

公二〇三三三五六五 郵便所名

全般概要		轉入	轉出	編制人員	隊別	隊長名	關人	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ返の變動	入ソノ人員	滿洲殘留	收容
隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊中六第	隊中五第	少將 山田	少將 山田	時員	時員	昭和二十年八月九日開戦と共に小嶺嶺高地に陣地展開、直接八月十八日環春西南方三軒の地帯で武解（約八百名）	入ソノ返の變動	入ソノ人員	滿洲殘留	收容	
大塚 善野	中尉 三住	大塚 善野												
中尉 丸山														

部隊名 野砲第一一二聯隊(二) 通稱號

公一三三三六五

郵便所名

隊別		隊長名 (内は先代を示す)	開人 時員	駐屯地 平時	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ迄の變動	入ソ人員 隊別計	満洲残留	收容所		歸還人員 計	状況不明 者数
隊中八第	隊中七第	隊中六第	隊中五第	隊中四第						收容所名	開人 死亡		
	中隊 三三						<p>作業大隊より入ソ迄の變動</p> <p>入ソ人員</p>			收容所名	開人死亡	歸還人員計	状況不明者数
	中隊 九山						<p>入ソ迄の變動</p> <p>入ソ人員</p>			收容所名	開人死亡	歸還人員計	状況不明者数

大尉 山田

中尉 三三

中尉 九山

大尉 山田

列	段	隊中九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊中六第	隊中五第
	少尉 如後	中尉 漢正	中尉 丸山	中尉 三注	大尉 菅野		
1690					100		
考	考				考		
二	月				考		
	八月十八日 一陽大八色	報告ハハハ 隊中九第 隊中八第			八月十八日 海軍 南方 三行 の 地 點 で 武 解 (約八百名)		
	全隊 大尉 神野	隊中九第 隊中八第 隊中七第			直接 五田大隊 丸山(五百名)		
	沿海 二四八	一 二 三 四					

